

2017年11月7日

「みんなのダイバーシティ調査」を実施
 — 約4割の生活者が「暮らしにくさ」を感じている —

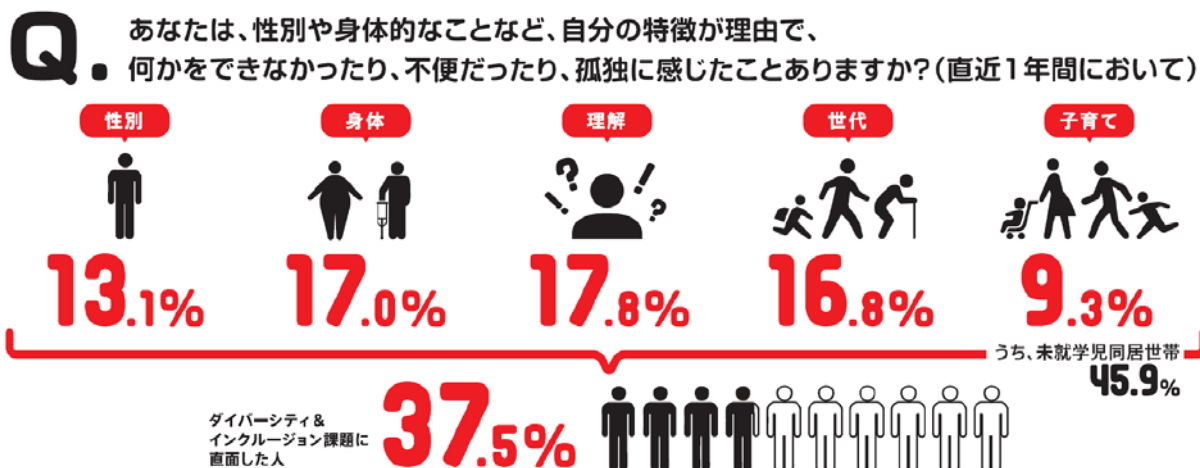
株式会社電通（本社：東京都港区、社長：山本 敏博）のダイバーシティ&インクルージョン課題対応専門タスクチーム「電通ダイバーシティ・ラボ」と「2020 プロデュースセンター」は、「みんなのダイバーシティ調査」を実施しました。

この調査は、多様な個性を受け入れ、認め合い、生かしていくダイバーシティ&インクルージョン（多様性の受容）社会の実現が求められる中、ダイバーシティを身近に感じるきっかけを提供することを目的に「超福祉展 2017」（主催：NPO 法人ピープルデザイン研究所）の協力、慶應義塾大学中野泰志教授の監修のもと行ったものです。

通常「ダイバーシティ」から想起されるのは、「LGBT（性的少数派）・障害者・高齢者・外国人」などに関するものですが、本調査では、全国の一般生活者15歳～70代978人を対象に、日常生活の中で抱えている「課題」についても設問しており、全体の約4割（37.5%）の人が社会的な環境が整っていないことで自分の特徴が弱みになったり、不便につながるなど、日常生活の中で「暮らしにくさ」を抱えており、ダイバーシティ・インクルージョン課題に直面している状況であることが分かりました。

ダイバーシティ&インクルージョン社会実現に向けた課題は、当事者のみのマイノリティ課題として捉えられがちですが、このような「暮らしにくさ」は多くの生活者にも共通する課題であることが判明しました。さらに、当事者／被当事者の垣根を越え、「多様な人々の個性や抱える課題」に関心を持ち、向き合い、社会として共に考えていくことの重要性を感じる結果となりました。

以下、ダイバーシティ&インクルージョン課題に直面した「インクルージョン・ニーズ」がある状況の調査結果となります。（N=978）



【慶應義塾大学 中野泰志教授のプロフィールとコメント】

プロフィール：国立特別支援教育総合研究所・研究員、慶應義塾大学・助教授、東京大学先端科学技術研究センター・特任教授を経て、2006年から慶應義塾大学経済学部教授。専門は、障害児教育、障害児者心理学、福祉のまちづくり、障害学生支援など。

コメント：2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を迎えるに当たり、ダイバーシティは重要なキーワードになっています。今回の調査は、価値観、心身の状態、年齢などが異なる多様な人たちの社会参加に対する意識・態度を明らかにするために計画されました。この調査を通して、自分自身の意識・態度の中にあるバリアーに気づき、共生社会の実現に向けて起こすべきアクションを、多様な人たちが一緒に考えるチャンスになることを期待しています。

「みんなのダイバーシティ調査」の詳細（日常生活における「LGBT」「障害者」「高齢者」「外国人」などに関する生活者の意識と行動など）は、本日、「超福祉展 2017」（11月7日～13日開催）にて発表、調査結果を活用した「課題解決アイデアセッション」を11月11日に開催予定です。調査結果詳細は、別紙（PDF）をご覧ください。

■「みんなのダイバーシティ調査」概要

- ・調査対象：15歳～70代の男女 978名
- ・調査対象エリア：全国
- ・調査時期：2017年9月13日～14日
- ・調査手法：インターネット調査
- ・人口構成に基づき、ウェイトバック集計を実施

【リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通 コーポレートコミュニケーション局 広報部
小川、溪 TEL：03-6216-8041

【調査に関する問い合わせ先】

株式会社電通 電通ダイバーシティ・ラボ 古平 TEL：03-6216-8058
2020プロデュースセンター 伊藤 TEL：03-6216-8471

あなたもダイバーシティ!

社会的な環境や制度が整っていないことで、自分の特徴が、弱みになったり、不便につながったりしてしまう。

そんな「困った!」の経験を持つ人は、実は世の中にたくさんいるのではないのでしょうか。

ダイバーシティ&インクルージョン社会を実現していく、ということは、

限られた人ではなく、あらゆる人の課題を解決していくことにつながります。

みんなが潜在的に持っている、ダイバーシティ&インクルージョン課題を探ってみました。

Q. あなたは、性別や身体的なことなど、自分の特徴が理由で、何かをできなかつたり、不便だつたり、孤独に感じたことありますか?(直近1年間において)

性別

例えば、女性専用車両に乗って気まずかった!
職場で紅一点で
話が合わない…なんてとき。



身体

例えば、左利きで自動改札機を通りづらい!
コンタクトを外したら温泉の中で
シャンプーが見つからない! なんてとき。



理解

例えば、家電製品の使い方説明書が
複雑すぎて分からない!
なんてとき。



世代

例えば、年上の上司と働き方の
価値観が違って、
自分らしく働けない! なんてとき。



子育て

例えば、満員電車でベビーカーを
押して乗ったら、冷たい目を向けられて
肩身が狭い! なんてとき。



ダイバーシティ&
インクルージョン課題に
直面した人



約4割の人に「インクルージョン・ニーズ」がある!

ダイバーシティ&インクルージョン社会実現に向けた課題は、当事者のみが関係することと捉えられがちだが、当事者かどうかの枠を超え、「多様な人々の個性と、直面している課題」に関心を持ち、社会全体で一緒に考えていくことが重要!



みんなのダイバーシティ調査

LGBT

LGBTの話題は増えているけれど、実際どのように受け取られているのだろう。

当事者や支援者だけでなく、広く多くの人に関心や理解を持てるような社会に、私たちは近づけているのでしょうか。

Q. この調査の前から、LGBTが何の略語か知っていましたか？

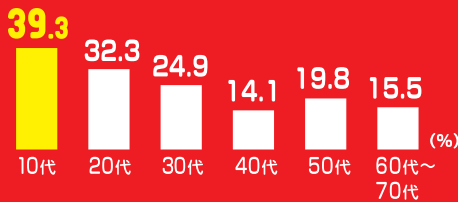


知っていた人と知らなかった人が4割ずつ！多い？まだまだ少ない？

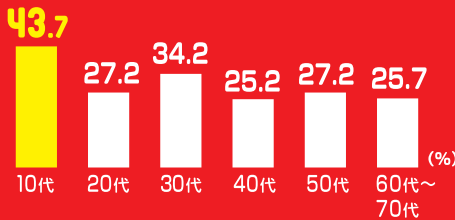
Q. 身近な人から、LGBTであるとカミングアウトされたら、受け入れられますか？

10代がかなりオープン、40代はスコアが低い項目も多い？

仲の良い友人や親族からカミングアウトされたら、受け入れられる



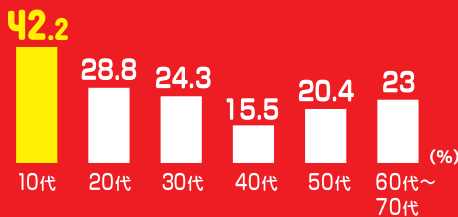
同性パートナーシップ条例に賛成



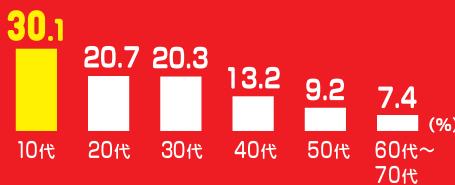
LGBTについて家族や友人と話題にしたことがある



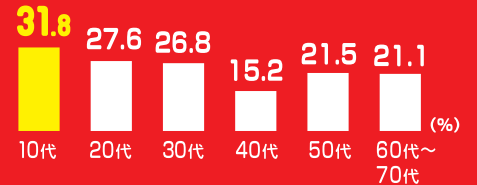
LGBTに偏見を持っていないと言い切れる



LGBTの活動を応援したい



LGBTの人が自分と話して心地悪さを感じないと思う

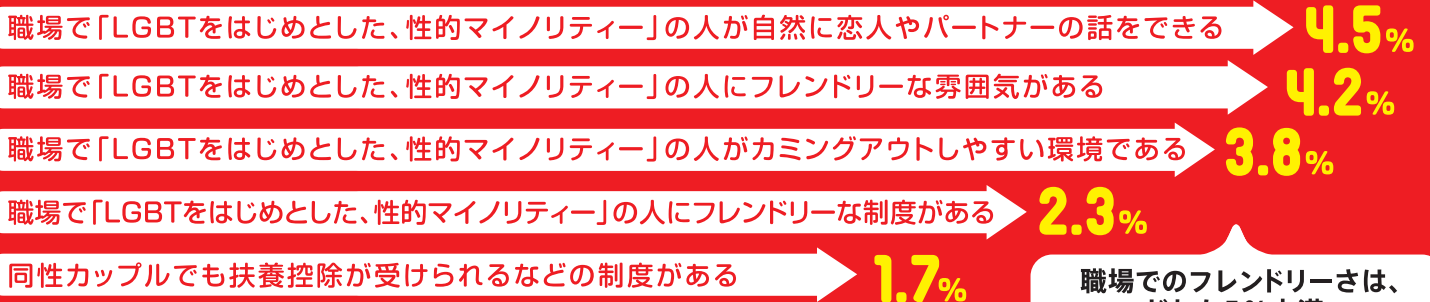


Q. あなたが中学生の時、LGBTだとカミングアウトしている人が2人以上いましたか？



LGBTは人口の7.6%とすると、(電通ダイバーシティラボ「LGBT調査2015」)クラスに2人いる計算になるけれど...

Q. あなたの職場は、LGBTフレンドリーですか？



職場でのフレンドリーさは、どれも5%未満。あなたの職場では、どうですか？



みんなのダイバーシティ調査

障害者

バリアフリー施設は比較的充実していると言われる日本だけど、障害のある人とない人は、
 実際どのように接しているだろう？ パラスポーツやパラアスリートがたくさんやってくる2020年に、
 私たちはウェルカムな空気をつくれるのでしょうか。

Q. 障害のある方に、話しかけたり、
 手助けをしたりするのが難しい、と
 感じたことのある場面は？

車いすの人

義足をつけた人

12.0%

8.4%

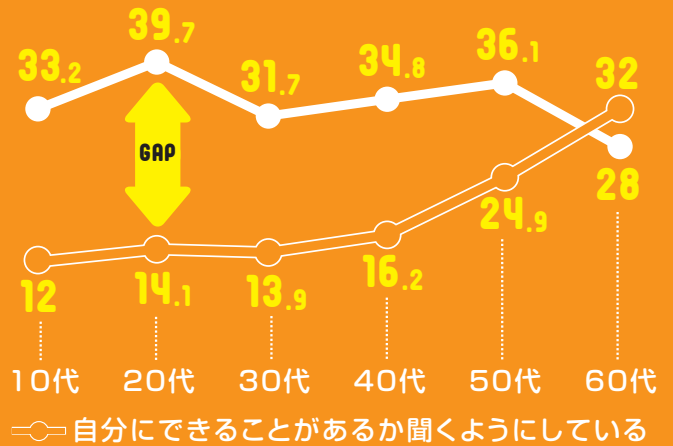


視覚障害者

23.8%

Q. 障害のある方と接することについて、
 どのように感じていますか？

●— どのように接したらよいかわからない



若い世代ほど、どうしてよいか分からない！
 まずは、聞いてみるところからスタートしてみても良いのかも？

Q. 障害のある方を
 手助けしたとき、
 相手の満足度は
 100点満点で
 何点だったと思いますか？

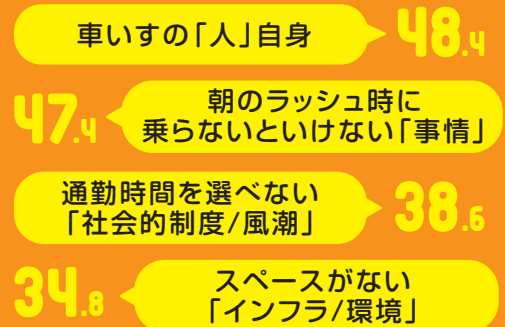
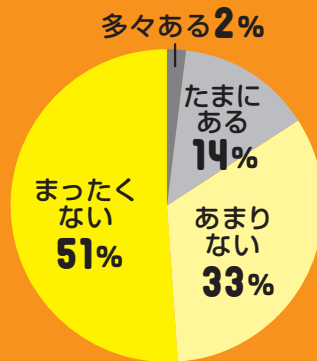
平均 **57.2点**

あまり満足な対応ができなかったと
 感じている？

Q. 朝の通勤ラッシュ時など、電車やバスが混み合う
 時間帯で戸惑った経験はありますか？

車いすが乗ってきて
 狭くなったと
 感じたことがある？

その原因は、
 どこにあると思いますか？



余裕のなくなる場面では「人」が怒りの矛先になっていない？
 環境や事情のせいだと、考えられないだろうか？



みんなのダイバーシティ調査

高齢者

2035年には、3人に1人が高齢者になると言われている日本。

知恵と経験があるけれど、体が動きづらくなったり、仕事をリタイアして人との交流の形が変わったり。

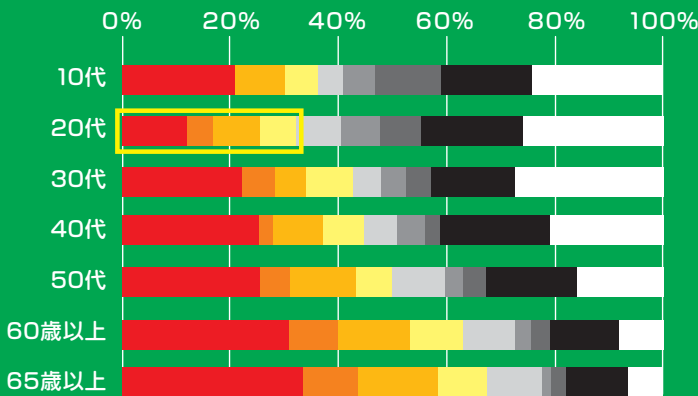
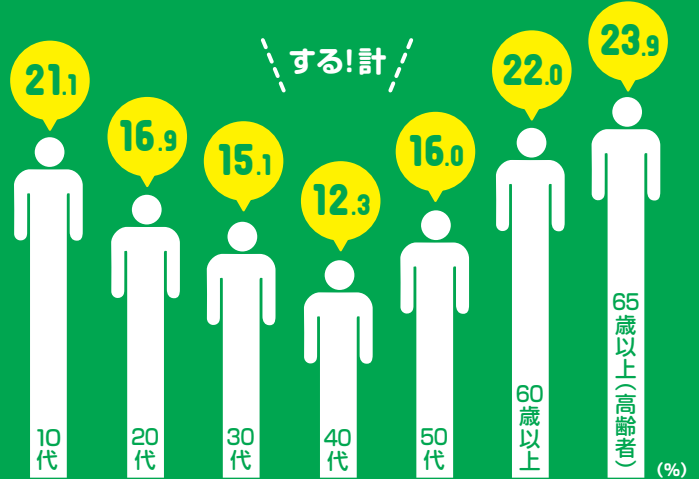
そんな高齢者と他世代が交流し、互いに刺激しあっているのでしょうか。

Q. どれくらいの頻度で、
高齢者と接していますか？

- ほぼ毎日
- 週に4~5日
- 週に2~3日
- 週に1日
- 月に2~3日
- 月に1日
- 2~3ヵ月に1日
- それ以下
- 高齢者に接する機会はない



Q. 街中で移動に困っているお年寄りに
声をかけたり手助けをしますか？

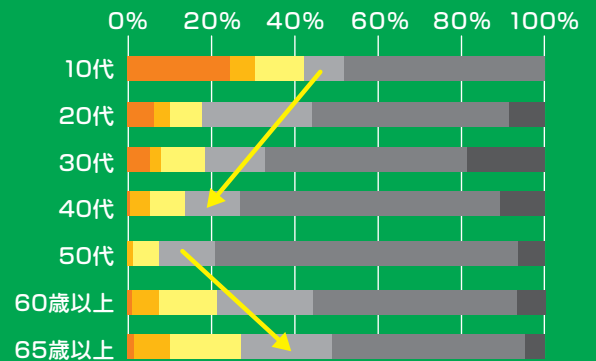
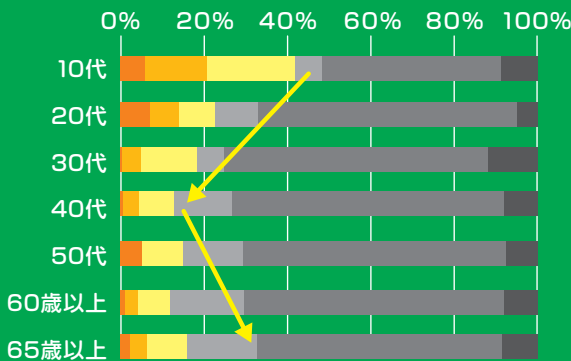


高齢者と20代が接する機会が少なそう。

忙しい40代、
なかなか声をかけられていない…?!

Q. 最近、友だちは増えましたか？

- 20人以上増えた
- 10人~20人以上増えた
- 5人~10人程度増えた
- 5人以下で増えた
- 全く増えていない
- 友だちが減った



実は高齢者も友達を増やしている！
アクティブな高齢者から、他世代が学ぶこともいっぱいあるかも！

※高齢者とは、65歳以上の人をさします。



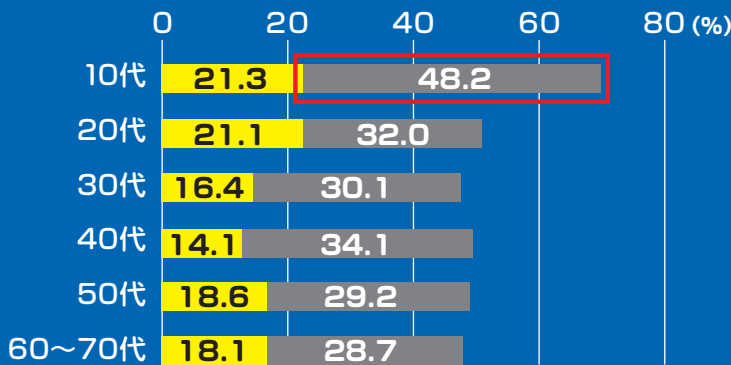
みんなのダイバーシティ調査

外国人

2020年やその先、観光に、働きに、暮らしに、日本にやってくる外国人はどんどん増えていく。
異なる文化や習慣、言語を持っていても、友だちになれば、きっと新しい世界が広がるはず。
私たちはそんなチャンスをいかせているでしょうか。

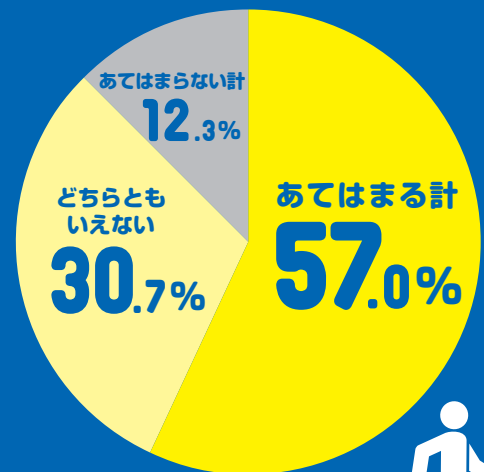
Q. 外国人の友だちがいますか？
欲しいですか？

■ 外国人の友達がいる ■ 外国人の友達はいないが、ほしい



10代の約半分が
「外国人の友だちがほしい」!

Q. 2020年に外国人がたくさん
やってくるけれど、道などで
困っていたら助けたいですか？



Q. 海外の人に話しかけられるのが
怖くて、思わず目をそらして
しまったこと、ありますか？

ある!
25.0%

なんと4人に1人が、
「目をそらしてしまったことがある」……!

Q. 日本に来た外国人と、
海外に行った日本人、
現地の人に道を尋ねたとき、
満足度が高いのはどちらでしょうか?!

日本に来たとき
「道・行き方」

平均 **51.7点**
自分が助けたときの自己評価

平均 **69.0点**
自分が助けられたときの印象

海外に行ったとき
「道・行き方」

海外で助けられたときの方が17点高い……!
自分で助けたときも、「100点の対応ができた!」
って言えるようになるには?



みんなのダイバーシティ調査